

## 令和5年度第1回鶴岡市男女共同参画推進懇談会 会議概要

- 日 時 令和5年11月22日(水) 13時30分～15時00分
- 会 場 市役所別棟2号館 21号会議室
- 委 員 伊藤眞知子委員、沓澤誠委員、太田千香子委員、大場千里委員、今埜孝委員、佐藤奈美委員、五十嵐恵美委員、池田ゆり子委員、平山陽子委員 佐藤知志委員 出席10名
- 傍 聴 傍聴者なし
- 次 第
  - 1 開会
  - 2 挨拶
  - 3 会長挨拶
  - 4 報告
    - (1) 令和4年度取組実績と評価検証 [資料1](#), [資料1-②](#)
    - (2) 令和5年度の主な取組について [資料2](#)
  - 5 懇談
    - テーマ「アンコンシャス・バイアスと男女共同参画」
    - (参考資料)
      - ・ 令和5年度男女共同参画白書に見る国内の状況 [資料3](#)
      - ・ 令和4年度性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究 (内閣府男女共同参画局) [HP参照](#)
  - 6 その他
  - 7 閉会

### ○報 告

- ・ 資料1 - ② No. 37について  
誰もが活躍できる地域社会づくりの実績報告を受けて、女性や若者も参加し地域ビジョンを策定したが、今後、いかに地域に浸透させていくかが課題となっている。
- ・ 資料1 - ② No. 57について  
東北公益文科大学大学院では地域共創コーディネーターの育成を行っており、学生が地域に入ってワークショップを行うなど地域づくりに協力している。地域外の力を活用していくことも重要である。

### ○懇 談 テーマ「アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)と男女共同参画」

アンコンシャス・バイアスに気付くことが、男女共同参画の推進につながると考えている。委員のそれぞれの立場で経験した事例を共有することで、男女共同参画を推進する上で参考とさせていただきたい。

### (全体)

- ・このテーマ設定がきっかけで、周囲でも当たり前だと思っていたことが、変わってきていることに気が付いた。どういう視点で考えるかが重要である。
- ・これまで意識していなかったが、アンコンシャス・バイアスに気付く良いきっかけとなった。
- ・アンコンシャス・バイアスを意識することは大変なことではなく、日々、気付きがあることは楽しいことである。アンコンシャス・バイアスは誰もが持っているものなので、意識して気付いていくことで、変わっていくものである。

### (第三者の思い込み)

- ・女性のひとり親が庭木の剪定をしたり、荷物を運んだりするときに「男手がないとダメだ」と周囲に思われてしまうことや、DVと聞くと男性が女性に行っているイメージなどがある。しかし、実際は女性から男性に向けたDVの相談事例も多く、考えを変えなければいけない。
- ・事業主は、ひとり親は子育てが大変だからという思い込みで、パートタイム勤務にする傾向がある。

### (男女の役割分担と思い込み)

- ・この地域の漁業者の家庭では、男性は漁に出て、女性は家を守る役割分担が一般的であるが、九州地方では、夫婦で漁船に乗り込み漁に出るところもある。
- ・男女の身体能力の差は、工夫次第で平等にすることができる。
- ・介護は女性の役割のようにになっているが、男性も関わりを持ってもらいたい。
- ・男性育休は増えているが、介護休暇については、男性が取得するケースはまだ少ない。
- ・これからは、家計は男性が支えるべきという思い込みが変わっていくと思う。
- ・コロナ禍で、自宅で過ごす時間も増え、妻が行っていた夕食担当を1か月ほど続けたことがあるが、当たり前と思っていた家事が大変だという気付きが、家族に対する優しさが変わった。

### (世代の思い込み)

- ・国のアンコンシャス・バイアスに係る調査資料を見て考えさせられた。60代男性のアンコンシャス・バイアスが強いと思っていたが、女性も高い値になっている。
- ・男性だから女性だからという考えは、年配の事業主に多い傾向が見られる。若い世代は、周囲の環境の影響だと思うが、昔は差別されていたことでも、男女差は感じない。
- ・商工会では経営指導員として女性が活躍している。40年前は女性に相談することはないと言う事業主もいたが、今はそんなこともなくなっている。

### (年齢の思い込み)

- ・年齢のイメージに対するアンコンシャス・バイアスがある。人生100年時代の50歳(女性センター40周年記念講演 講師：坂東眞理子氏の講演内容)と考えたときに自分がやりたいことに挑戦しようと思い、今年、前の会社を辞めて起業した。50歳の年齢に対するイメージが変わり、50歳の起業は早くも遅くもないと思っている。

### (社会経験による思い込み)

- ・今回のテーマ設定でアンコンシャス・バイアスを意識したときに、社会人になり、様々な経験によって、アンコンシャス・バイアスがどんどん増えていく自分に気付いた。

### (学校現場の変化)

- ・男女共同参画の視点や多様性への対応がきっかけで、これまで当たり前だったことが変わってきている。
- ・クラス名簿について、男女別が当たり前だったが、現在は混合名簿になっている。
- ・女生徒の服装について、スカート指定からスラックスの選択もできるようになっている。

### (企業の変化)

- ・企業では産休育休の手続きが増えている。以前は出産を機に会社を辞める女性が多かったが、現在は育児休業を取得しており、ほとんど辞めない。この10年間で企業の考え方が変わったと感じる。
- ・コロナ禍で男性育休の取得が増えたことは、行動制限によって親の支援が受けられない子育て世帯の現状に寄り添い、企業側の理解が進んだことによる。
- ・人手不足が進行しており、雇用の確保が困難になっている。働きやすい労働環境がある企業に人材が集まる。男性育休の取得できる企業は労働環境のイメージがよいことから、企業側の取組も進んでいる。
- ・自社では、子どもの迎えで定時よりも早い時間での退勤を希望する社員に合わせたフレックスタイムの導入や男女の給与体系の統一、フリードリンクの機械を導入し事務員のお茶出しを無くすなど、全ての社員が働きやすい職場環境に変えている。

○閉会 15:00